



御蔵島の野生化ネコ、年3万5千羽以上のオオミズナギドリを捕食

野生動物研究領域：亘 悠哉

東京大学 御蔵島のオオミズナギドリを守りたい有志の会

世界最大のオオミズナギドリの繁殖地の伊豆諸島御蔵島において野生化しているネコの糞内容物を分析した結果、ネコが少なくとも年間3万5千羽以上のオオミズナギドリを捕食していることが明らかとなりました。

■ ネコのオオミズナギドリ捕食開始のタイミング

オオミズナギドリが繁殖のために御蔵島に帰島する時期の1月～3月初旬に伊豆諸島御蔵島の森林域で捕獲された野生化ネコが排出した糞の内容物を分析しました。

その結果、1月29日に捕獲されたネコの糞からオオミズナギドリが出現し(図1)、さらにその後、糞からの本種の出現頻度は急増し、2月13日には50%を超え、2月19日には75%に達し、2月中旬にはすでに主食の水準に達していることが明らかになりました。この結果は、これまでの人の調査によるオオミズナギドリの最も早い帰島記録を、ネコが5週間更新するものであることにくわえ、私たち人間が本種の帰島を感知する前にすでにネコは主食として本種を食べていることを示しています。

■ ネコによるオオミズナギドリ捕食数推定

糞内容物分析の結果と既存研究の哺乳類の必要カロリー量に基づいた手法を用いて推定したところ、ネコ1頭の年間オオミズナギドリ捕食数の推定値は、330羽となりました。御蔵島のネコの生息数は明らかになっていませんが、御蔵島で行われている最近のネコの捕獲数(106頭:2022年度)を最低限の個体数と仮定できるのでこの値を用いると、最低でも年間34,980羽(=330羽×106頭)のオオミズナギドリがネコによって捕食されていることが明らかになりました(図2)。

■ ネコによるオオミズナギドリ以外の陸鳥の捕食

本研究では、海鳥のオオミズナギドリだけではなく、国内希少野生動物種で国の天然記念物のアカコッコ、準絶滅危惧種で国の天然記念物のカラスバト、

上位捕食者のオオコノハズクの3種の陸鳥の捕食も確認されました(図1)。そして前述と同様の捕食数推定手法を用いると、陸鳥全体で最低でも年間2,120羽がネコに捕食されていると推定されました(図2)。

オオミズナギドリの世界最大繁殖地を保全するためにも、一刻もはやく対策を実施することが必要です。

研究資金

- ・科研費(JP24K03135)「トキソプラズマ症スピルオーバープロセスの解明と生態系アプローチによる対策の実践」
- ・住友財団環境研究助成(2330163)

参照文献・サイト

Watari, Y., Matsuyama, Y., Tokuyoshi, M., Nose, T., Hayama, H., Kawakami, K. and Oka, N. (2025) Unexpectedly early and drastic dietary shift of feral cats to seabirds: Evidence from fecal samples of cats captured during the transition to the breeding season of the streaked shearwater on Mikura-shima Island, Japan. *Mammal Study* 50: 317-327.

亘 悠哉・徳吉美国・野瀬紹未・長谷川潤・草地ゆき・葉山久世・松山侑樹・三條場千寿・岡奈理子(2025)「御蔵島野生化ネコ捕獲プロジェクト」の概要. *Mikurensis -みくらしまの科学-* 14: 55-66.

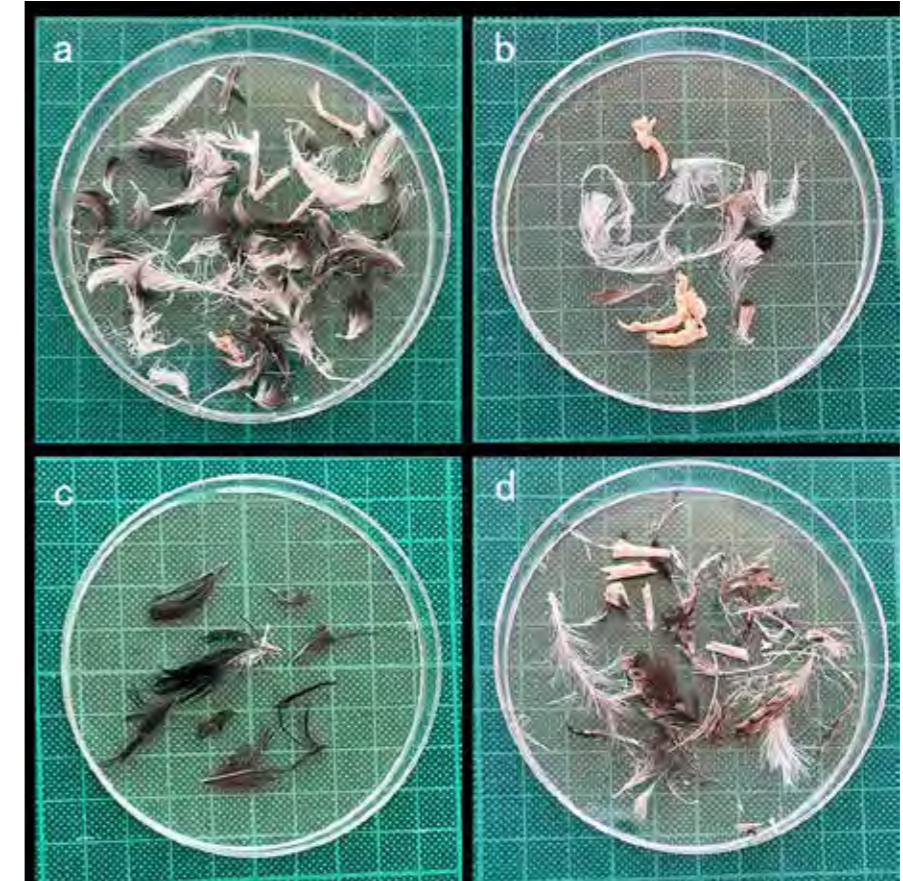


図1 野生化ネコが排出した糞から検出された鳥類

a) オオミズナギドリ、b) アカコッコ、c) カラスバト、d) オオコノハズク。背景は1 cm方眼。



図2 御蔵島における野生化ネコによる推定鳥類捕食数